

景気見通し調査 調査結果

令和5年12月期

特別調査①【コスト上昇に対する価格転嫁などの現状】

特別調査②【インボイス制度の対応状況】

福井商工会議所 中小企業総合支援センター

【調査の概要】

当調査は、福井商工会議所管内の小規模事業所を中心とした短期的な景気動向を把握するため、毎年3月・6月・9月・12月の年4回実施している。

調査時期：令和5年11月28日(月)～12月15日(金)

調査方法：FAXによる送付・回収及びGoogleフォームによる回答

調査対象：福井商工会議所の会員 小規模事業所を中心に2,049件を抽出
(製造業・建設業・その他…従業員20人以下の事業所
卸売業・小売業・サービス業…従業員5人以下の事業所)

回答数：435件(回答率21.3%)

従業員数	製造業	建設業	小売業	卸売業	サービス業	合計
5名以内	36	62	38	37	80	253(54.0%)
6～10名以内	33	16	5	10	16	80(18.5%)
11名以上	37	26	9	13	17	102(23.5%)
小計	106(24.3%)	104(23.9%)	52(12.0%)	60(13.8%)	113(26.0%)	435(100.0%)

D I 値とは…ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、景気動向を示す指標。「良い」「上昇した」とする企業割合から、「悪い」「下落した」とする企業割合を差し引いた値。「現在」D I 値は3ヵ月前を基準とした現在の状況、「先行」D I 値は今後3ヵ月後の状況を予測したもの。

【調査結果の概要】

景況感は小幅ながら改善するも、物価高などの影響もあり先行きは予断を許さず。

①業界の景況

小幅ながら改善。5期連続でコロナ前（令和元年12月期）の水準を上回る。

②自社の景況

わずかながら6期ぶりに悪化。小売業、卸売業で悪化の幅大きく。

③売上高(受注高)

改善傾向から悪化に転じる。先行きも悪化が続く見通し。

④販売価格

2期連続で下降。製造業で顕著。

⑤仕入価格

3期連続で下降、改善傾向が続く。先行きはわずかに悪化する見通し。

⑥採算(収支)

3期ぶりに悪化。先行きも悪化が続く見通し。

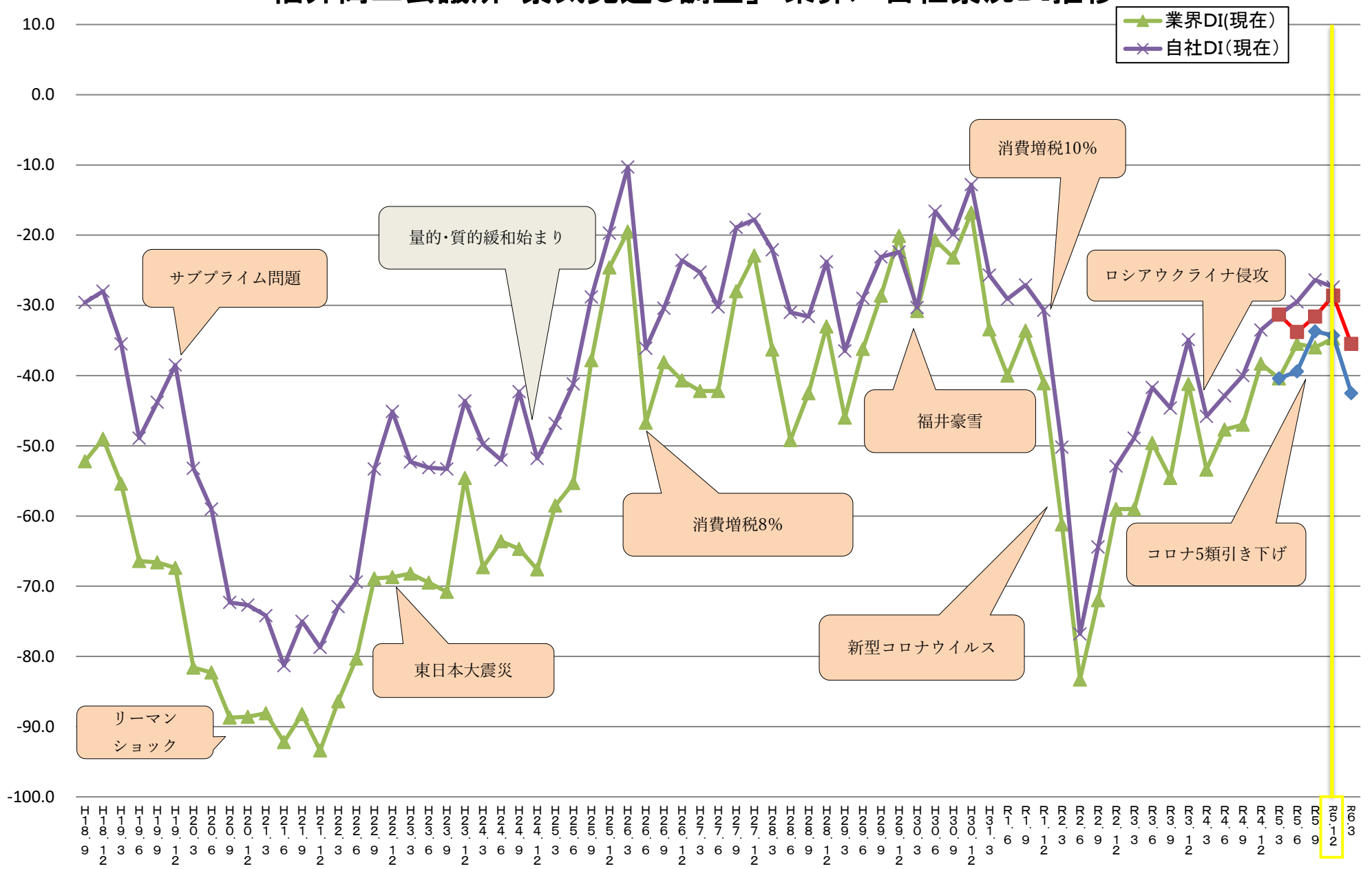
【特別調査①「コスト上昇に対する価格転嫁などの現状」の概要】

- コスト上昇分の販売価格への転嫁の割合は、1割未満から3割未満の「少しはできている」が43.3%と最多で、依然として低い水準にとどまった。
- コスト上昇分に対する販売価格への転嫁度合いを示す「価格転嫁率」は30.7%で、コスト上昇分のおよそ7割を事業所が負担している結果となった。
- 価格転嫁ができた要因は、「業界全体における理解の進展」が49.3%と最も多くなり、令和5年3月期調査と比べると少しずつではあるが価格転嫁に対する理解が進んでいる様子が窺えた。
- 価格転嫁の支障になるものは、「他社との価格競争や値上げによる買い控えに関する懸念」が47.6%と最も多く、価格転嫁による売上への影響を不安視する事業所が多かった。

【特別調査②「インボイス制度の対応状況」の概要】

- インボイス発行事業者の「登録済み」は94.5%に達し、約1年前の調査で「登録済み」は31.4%だったことから制度開始までに登録がかなり進んだ。
- 自社のインボイス制度の対応は、「順調である」が71.6%を占め、順調にスタートできている事業所が多かった。
- インボイス制度の課題は、「経理業務の負担増加」が68.3%と突出して多く、請求書、領収書の記載内容の確認などの業務負担が大きくなっていることが浮き彫りとなった。
- インボイス発行の登録をしていない事業者との取引について「これまで通り取引を続ける」が56.2%と最も多く、制度開始後は免税事業者からの仕入も部分的に税額控除を認める経過措置があり、取引をすぐ止める事業所は少ないと予想されるが、今後の動向を注視する必要があると考えられた。

福井商工会議所「景気見通し調査」 業界／自社景況DI推移

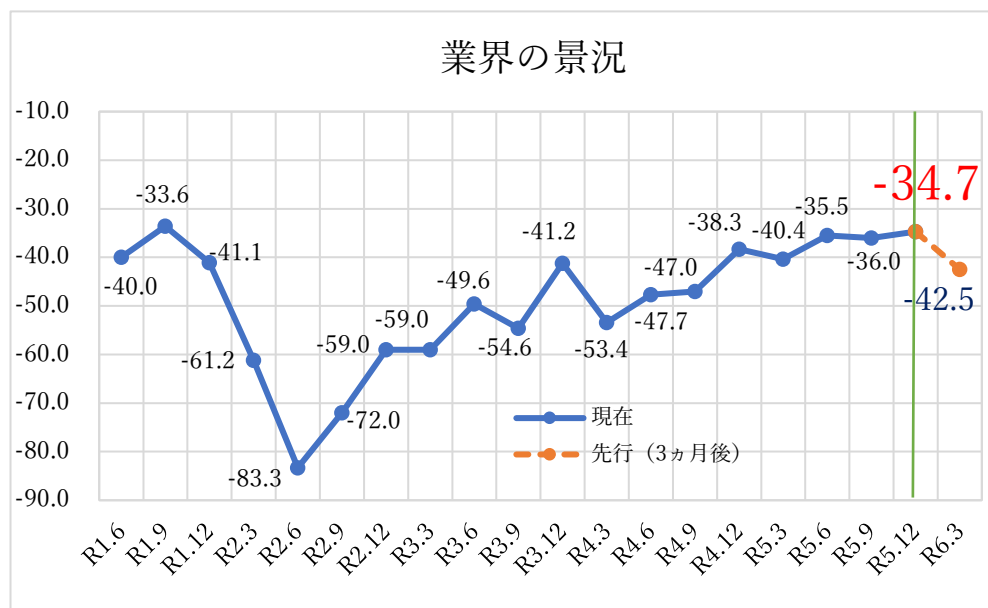


①—業界の景況—

【小幅ながら改善、先行きに対する懸念も根強く】

業界全体の現在DI値は、▲34.7 (+1.3ポイント)と小幅ながら改善し、5期連続でコロナ前（令和元年12月期）の水準を上回った。一方、先行DI値は▲42.5 (-7.8ポイント)と悪化する見通しで、不安定な世界情勢や物価高などの先行きの不確実性に対する懸念も窺われた。

業種別にみると、建設業は現在DI値が▲17.3 (+12.0ポイント)と大幅に改善し、内装工事の事業者からは「秋から冬にかけて基礎工事の受注が多かった」との回答が見られたが、先行DI値は▲38.8 (-21.5ポイント)と大きく悪化し、北陸特有の冬期の天候不順や降雪の影響もあると考えられた。また、卸売業は現在DI値が▲41.7 (-10.0ポイント)と悪化し、再生資源卸売の事業所からは「後継者や従業員を確保できない工場の閉鎖や廃業などによって業界全体の景況感は悪い状態が続いている」といった声も聞かれた。



① 業界の景況	2023年10~12月（今期）		2024年1~3月（見通し）	
	現在DI値	変化幅 (R5.12-R5.9)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	-34.7	1.3	-42.5	-7.8
製造業	-46.2	0.5	-46.7	-0.5
建設業	-17.3	12.0	-38.8	-21.5
小売業	-57.7	-6.8	-57.7	0.0
卸売業	-41.7	-10.0	-55.0	-13.3
サービス業	-25.7	1.4	-28.3	-2.6

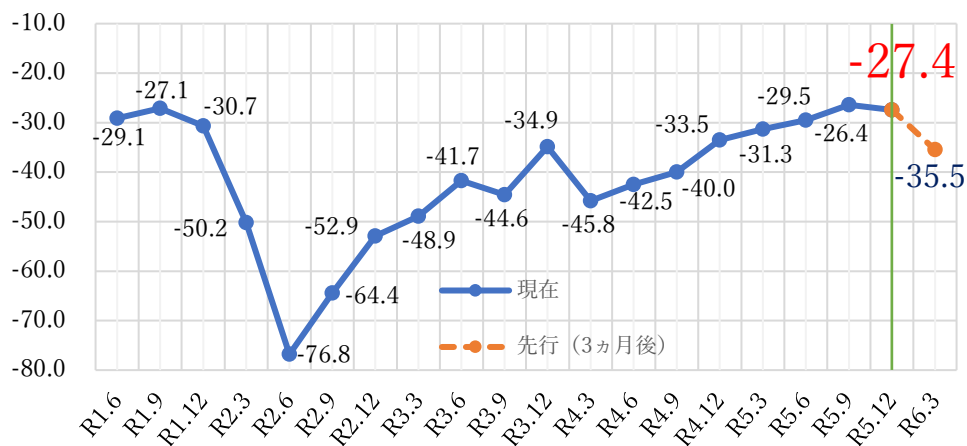
②—自社の景況—

【わずかながら悪化、小売業、卸売業で悪化の幅大きく】

自社の景況は、現在DI値が▲27.4（-1.0ポイント）と前回調査（令和5年9月期）まで6期連続で改善していたが、わずかながら悪化に転じた。また、先行DI値も▲35.5（-8.1ポイント）と悪化が続く見通しとなった。

業種別にみると、建設業は現在DI値が▲7.7（+12.3ポイント）と大幅に改善した。管工事の事業所からは「福井駅前や加賀温泉駅前の融雪に関する工事受注がありこの3か月間は好調だった」と間近に迫った北陸新幹線開業の影響に関する回答も見られた。一方、小売業は現在DI値が▲51.9（-20.3ポイント）、卸売業は現在DI値が▲35.6（-17.6ポイント）と大きく悪化し、食料品卸売の事業所からは「ふく割の発行が縮小、終了した影響で小売店に向けた商品の売上が落ちている」といった声が聞かれた。

自社の景況



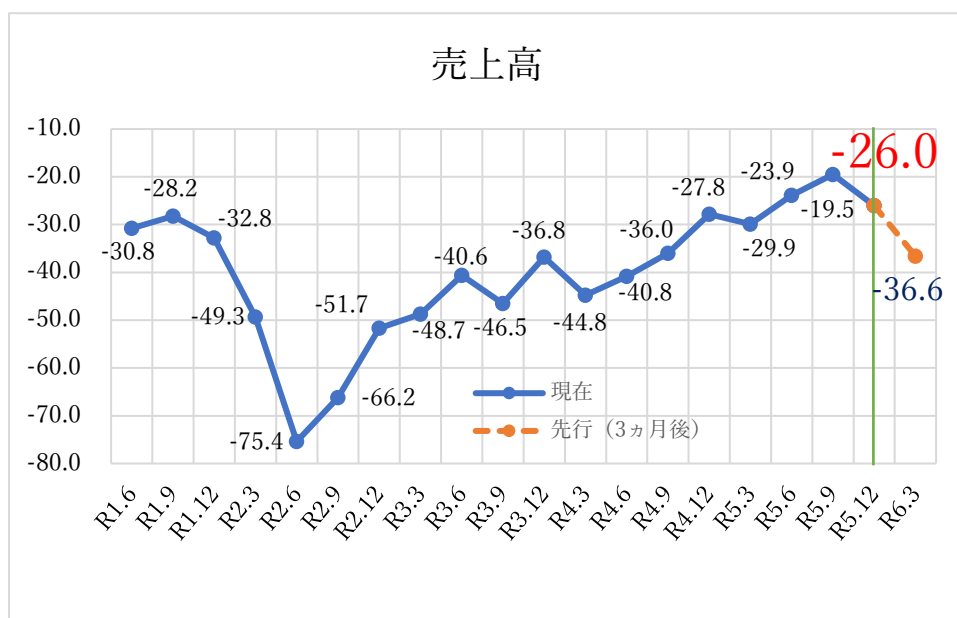
② 自社の景況	2023年10~12月（今期）		2024年1~3月（見通し）	
	現在DI値	変化幅 (R5.12-R5.9)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	-27.4	-1.0	-35.5	-8.1
製造業	-34.9	-3.2	-35.8	-0.9
建設業	-7.7	12.3	-26.0	-18.3
小売業	-51.9	-20.3	-53.8	-1.9
卸売業	-35.6	-17.6	-52.5	-16.9
サービス業	-23.0	5.8	-26.5	-3.5

③一売上高（受注高）

【改善傾向から悪化に転じる】

売上高（受注高）の現在DI値は、▲26.0（-6.5ポイント）と3期ぶりに悪化した。また、先行DI値も▲36.6（-10.6ポイント）と下降し、悪化が続く見通しとなった。

業種別にみると、現在DI値は建設業で▲14.4（+2.6ポイント）と改善したものの、小売業で▲53.8（-24.0ポイント）、卸売業で▲21.7（-15.1ポイント）と大幅に悪化した。雑貨品小売の事業所からは「物価高の中で消費者には、余計な買い物をしないようにショッピングセンターなど複数の店舗が入居している施設を避ける傾向が見られる」といった声が聞かれ、物価高の長期化により消費者に買い控えが生じ、売上高に影響している様子も窺えた。



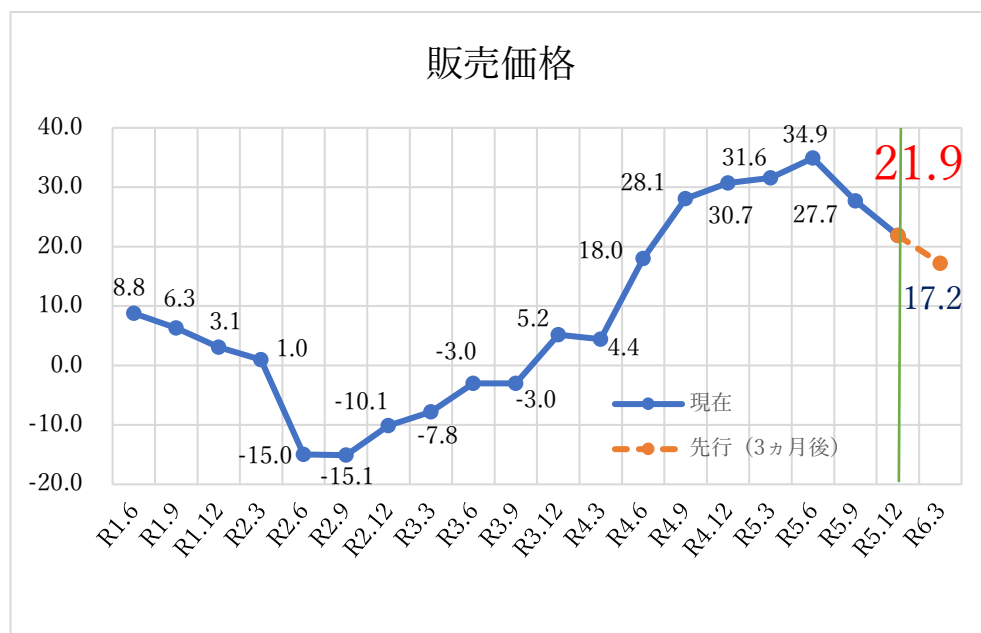
③ 売上高	2023年10~12月（今期）		2024年1~3月（見通し）	
	現在DI値	変化幅 (R5.12-R5.9)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	-26.0	-6.5	-36.6	-10.6
製造業	-28.6	-7.6	-36.5	-7.9
建設業	-14.4	2.6	-31.7	-17.3
小売業	-53.8	-24.0	-45.1	-8.7
卸売業	-21.7	-15.1	-41.7	-20.0
サービス	-23.9	-1.9	-34.5	-10.6

④—販売価格—

【2期連続で下降、製造業で顕著】

販売価格の現在DI値は、21.9（-5.8ポイント）と過去最高だった令和5年6月期調査から連続して下降した。また、先行DI値も17.2（-4.7ポイント）と下降が続く見通しとなり、令和4年3月期調査以降、販売価格の上昇がずっと続いていたが、その傾向に落ち着きが見られる結果となった。

業種別にみると、現在DI値はサービス業で23.9（+12.6ポイント）と大幅に上昇した一方、他の業種は全て下降した。特に製造業は11.3（-22.0ポイント）と大幅に下降し、機械製造の事業所からは「昨年、一昨年の見積もりから3割ほど価格を下げてほしいと要望があったが仕事を引き受けざるを得ない」といった取引先との交渉に苦心する声など依然として価格転嫁が進まず値上げできていない回答も見られた。



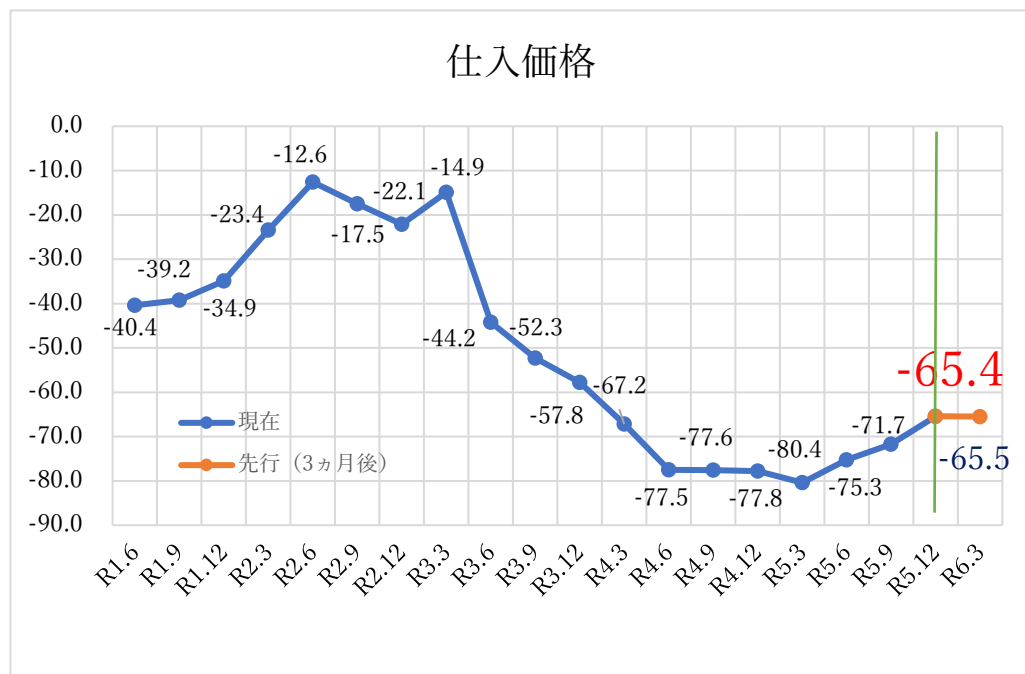
④販売価格	2023年10～12月（今期）		2024年1～3月（見通し）	
	現在DI値	変化幅 (R5.12-R5.9)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	21.9	-5.8	17.2	-4.7
製造業	11.3	-22.0	17.0	5.7
建設業	13.6	-7.6	8.7	-4.9
小売業	46.2	-2.9	28.8	-17.4
卸売業	30.0	-9.3	23.3	-6.7
サービス業	23.9	12.6	16.7	-7.2

⑤—仕入価格—

【3期連続で下降、改善傾向が続く】

仕入価格の現在DI値は、▲65.4 (+6.3ポイント)と3期連続で改善（仕入価格が下降）し、大幅な改善にまでは至らないものの価格は頭打ちしたとも考えられた。しかし、先行DI値は▲65.5 (-0.1ポイント)とわずかに悪化（仕入価格が上昇）する見通しとなった。

業種別にみると、現在DI値は建設業で▲65.0 (+15.6ポイント)、製造業で▲58.1 (+13.3ポイント)と改善が目立った一方で、小売業は▲75.0 (-10.1ポイント)と全業種の中で唯一悪化（仕入価格が上昇）した。食料品小売の事業所からは「以前と比べると仕入値が15%ほど上昇しているが値上げすると買い控えにつながるため価格転嫁できていない」といった声が聞かれ、仕入価格の高止まりが続き、収益の圧迫など経営に与える影響が懸念された。



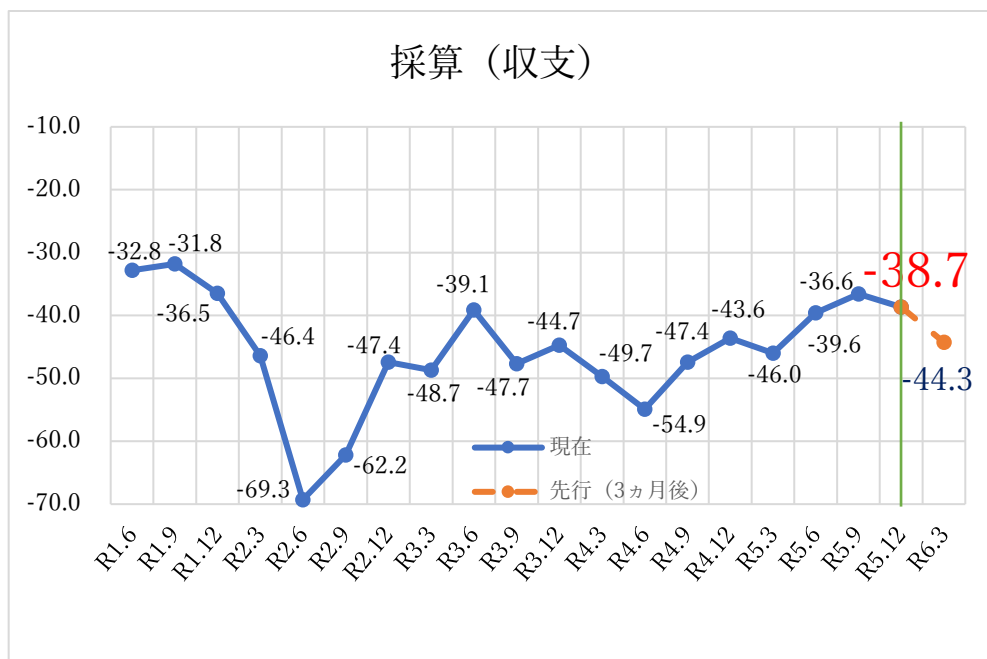
⑤仕入価格	2023年10~12月（今期）		2024年1~3月（見通し）	
	現在DI値	変化幅 (R5.12-R5.9)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	-65.4	6.3	-65.5	-0.1
製造業	-58.1	13.3	-57.5	0.6
建設業	-65.0	15.6	-68.0	-3.0
小売業	-75.0	-10.1	-73.1	1.9
卸売業	-68.3	7.1	-66.7	1.6
サービス業	-66.7	0.9	-66.7	0.0

⑥—採算（収支）—

【3期ぶりに悪化】

採算（収支）状況を表す現在DI値は、▲38.7（-2.1ポイント）と3期ぶりに悪化した。また、先行DI値も▲44.3（-5.6ポイント）と悪化する見通しとなった。コロナ禍から社会経済活動が正常化する一方で、原材料費の高騰や円安進行によるコスト上昇、賃上げなども影響していると推察された。

業種別にみると、現在DI値は製造業で▲45.3（+1.4ポイント）、サービス業で▲38.4（+0.9ポイント）と前回調査に引き続き改善したが、小幅にとどまった。一方、卸売業は現在DI値が▲33.9（-10.9ポイント）、小売業は現在DI値が▲48.1（-9.5ポイント）と前述した②「自社の景況感」、③「売上高」と連動し、また他業種と比べても悪化が目立った。自動車部品販売の事業所からは「仕入価格が上がっているが、未だ市場価格に反映されていないため、コスト上昇分を自社で吸収せざるを得ない」といった回答も見られ、採算の確保に苦慮している様子も窺えた。



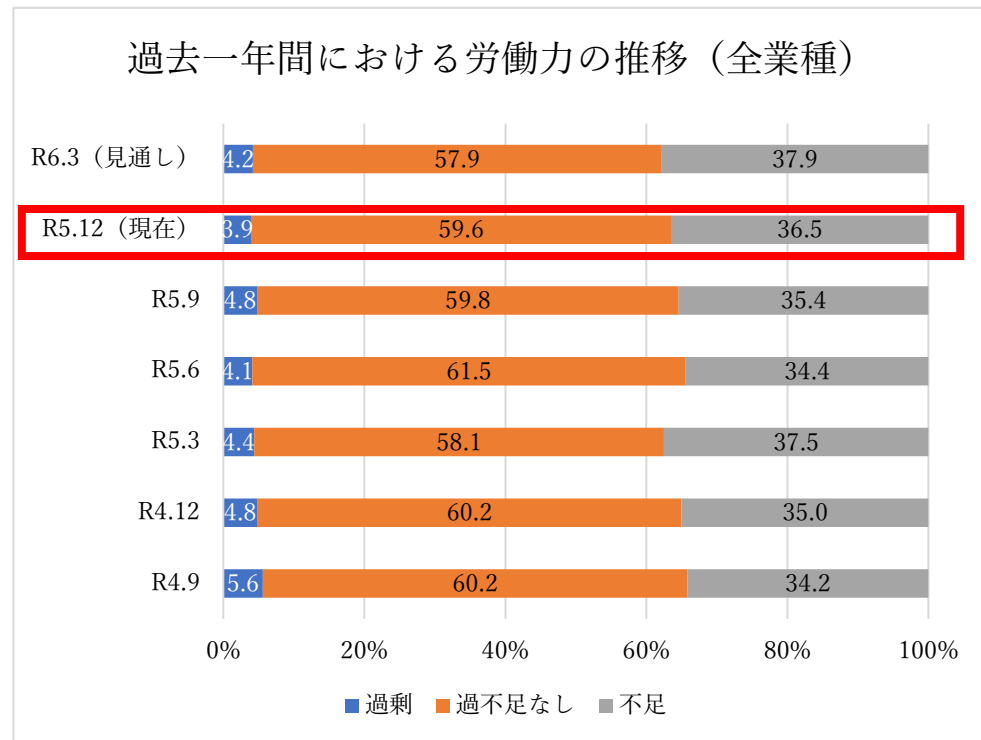
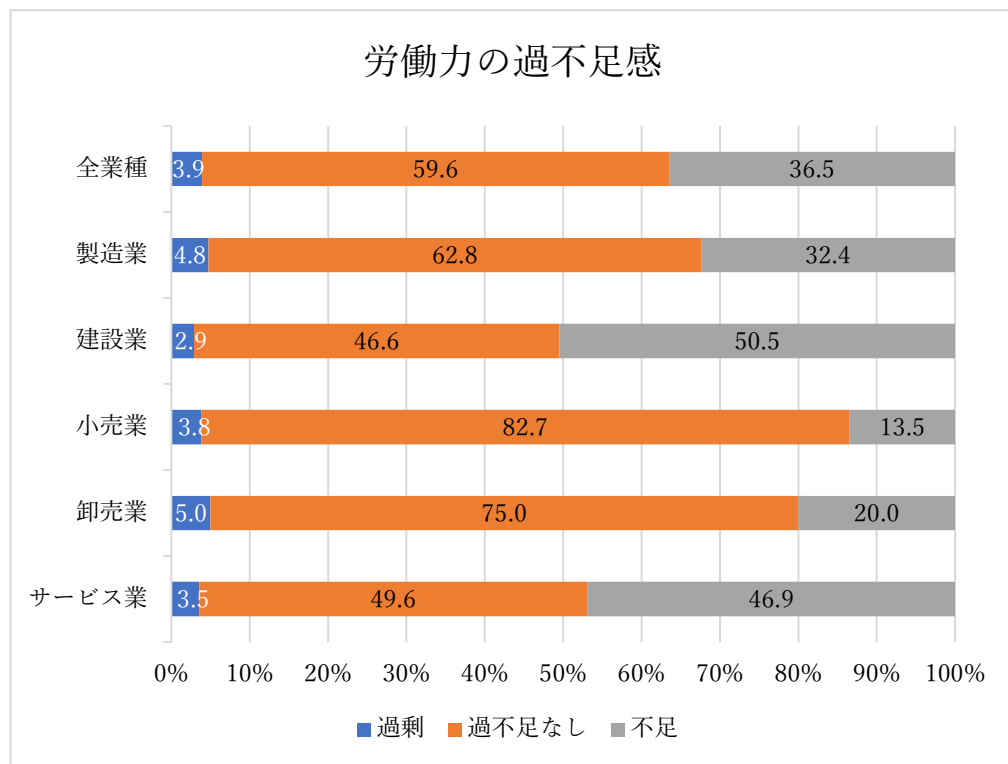
⑥採算	2023年10~12月（今期）		2024年1~3月（見通し）	
	現在DI値	変化幅 (R5.12-R5.9)	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	-38.7	-2.1	-44.3	-5.6
製造業	-45.3	1.4	-48.1	-2.8
建設業	-30.1	-0.2	-41.6	-11.5
小売業	-48.1	-9.5	-46.2	1.9
卸売業	-33.9	-10.9	-49.2	-15.3
サービス業	-38.4	0.9	-39.6	-1.2

⑦—労働力—

【不安感が強まり、今後も続く見通し】

労働力については、「不足」が36.5%（前回35.4%）とわずかながらに増え、2期連続で増加した。また、3か月後も37.9%（+1.4ポイント）と不足感が強まる見通しとなった。

業種別にみると、「不足」は小売業で13.5%（前回28.1%）、建設業で50.5%（前回54.6%）と減少したが、建設業は「不足」が未だ半数を超える状況が続く結果となった。また、サービス業は「不足」が46.9%（前回37.6%）と大幅に増加し、民営職業紹介の事業所からは「従業員に欠員や退職者が出ており、売上目標を達成するには人手が足りない」といった声も聞かれた。

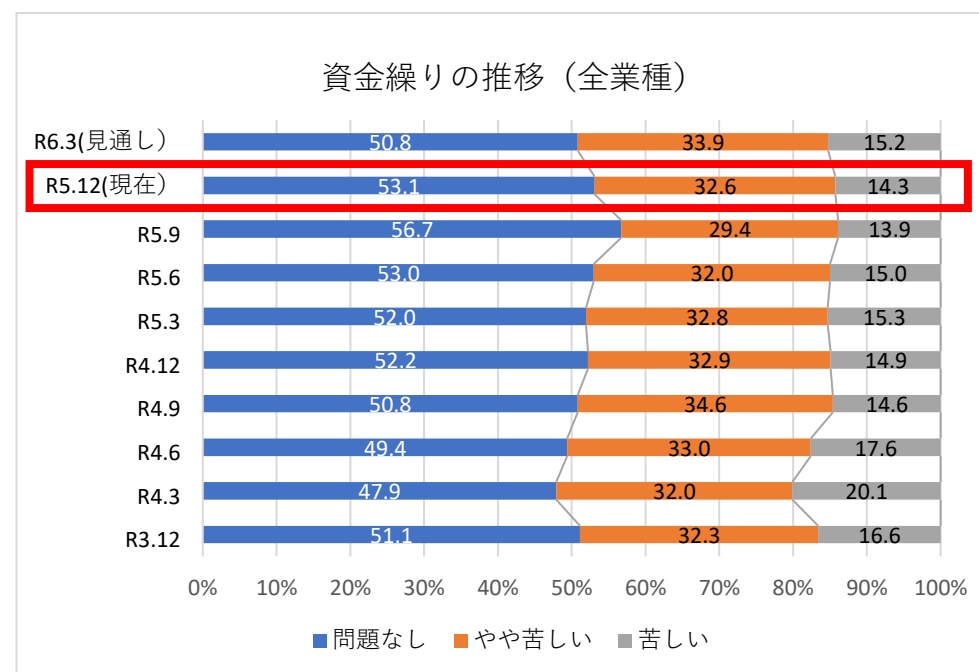
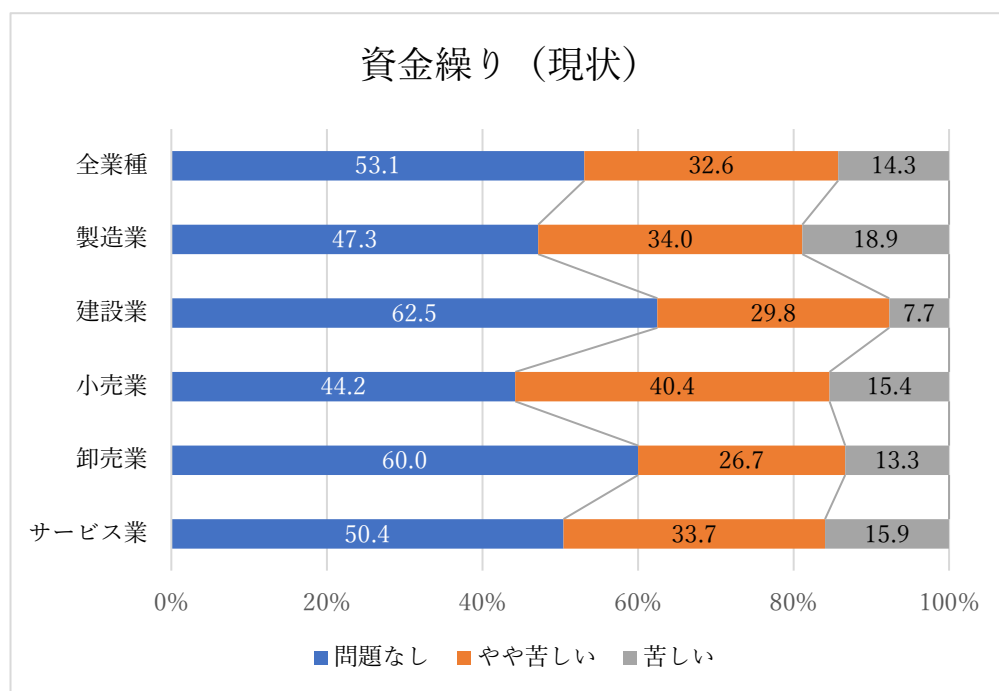


⑧—資金繰り—

【「問題なし」が半数を超えるも「やや苦しい」が増加】

現在の資金繰りの状況は、「問題なし」が53.1% (-3.6ポイント)と減少したものの、6期連続で半数を超えた。一方で、「やや苦しい」が32.6% (+3.2ポイント)と増加し、さらに3か月後は「やや苦しい」が33.9% (+1.3ポイント)、「苦しい」が15.2% (+0.9ポイント)と増加する見通しで、コロナ融資（ゼロゼロ融資）返済が本格化する中で、資金繰りの不安が高まっている様子も窺われた。

業種別にみると、「やや苦しい」は小売業で40.4% (+12.3ポイント)、卸売業で26.7% (+8.7ポイント)と前述した⑥「採算」（9ページ参照）と連動して、他業種と比べて悪化が目立つ結果となった。



⑨—設備投資—

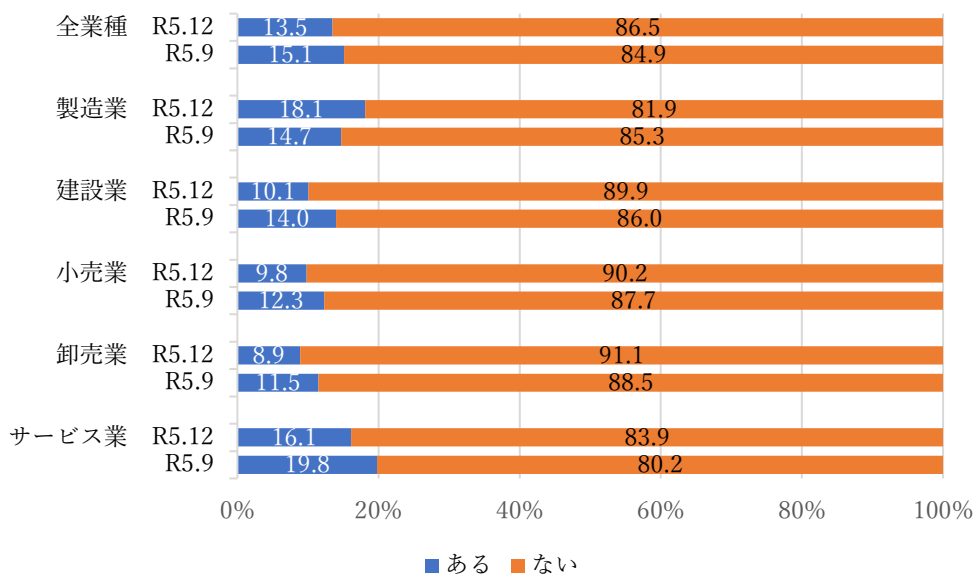
【「計画なし」が増加、「計画あり」の投資内容は「合理化・省力化」が増える】

今後3か月以内の設備投資計画は、「投資計画あり」が13.5% (-1.6ポイント)、「投資計画なし」は86.5% (+1.6ポイント)となり、これまでと変わらず事業所の多くに設備投資を控える姿勢が見られる結果となった。

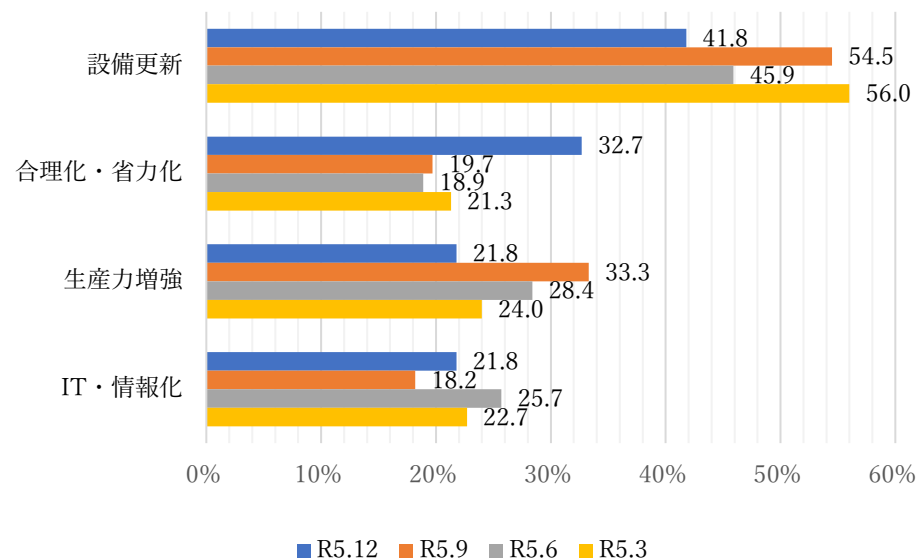
業種別にみると、製造業は「投資計画あり」が18.1% (+3.4ポイント)と全業種の中で唯一増加し、投資内容では「生産力増強」を挙げる回答が最も多かった。

尚、「投資計画あり」と回答した事業所の投資内容では、「設備更新」が41.8% (-12.7ポイント)とこれまでと同様に最多だった。次に回答が多かったのは「合理化・省力化」で32.7% (+13.0ポイント)となり、人手不足を合理化・省力化への投資で解決しようとする様子も窺えた。

設備投資計画



設備投資の目的

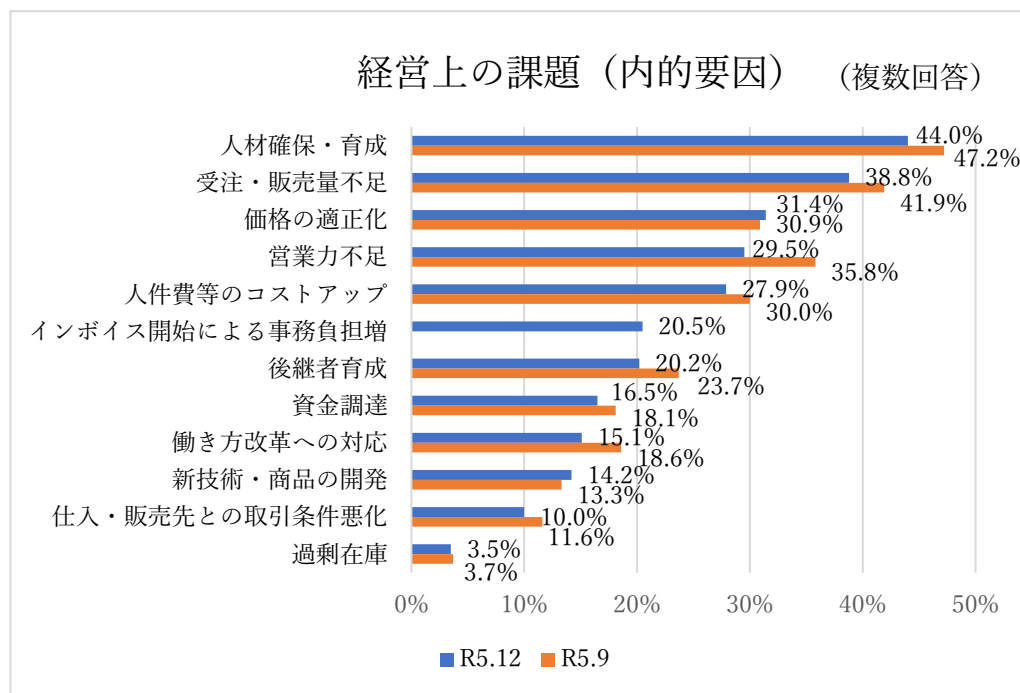


⑩—経営課題（内的要因）—

【「人材確保・育成」を課題とする回答が最も多く】

内的要因における経営上の課題は、「人材確保・育成」が44.0%（-3.2ポイント）と回答割合は減少したものの5期連続で最も多く、次いで「受注・販売量不足」が38.8%（-3.1ポイント）、「価格の適正化」が31.4%（+0.5ポイント）と続いた。尚、今回の調査から追加した項目の「インボイス開始による事務負担増」を経営上の課題として挙げる回答は20.5%となった。

業種別にみると、「人材確保・育成」は建設業で56.3%（-6.6ポイント）、サービス業で52.3%（-4.9ポイント）と課題として最も多く挙げられた。また、「受注・販売量不足」は卸売業で47.5%（+5.8ポイント）、小売業で59.6%（+1.4ポイント）、製造業で52.4%（-8.4ポイント）と最多で、全業種において、前回調査から主要な課題に変化は見られなかった。



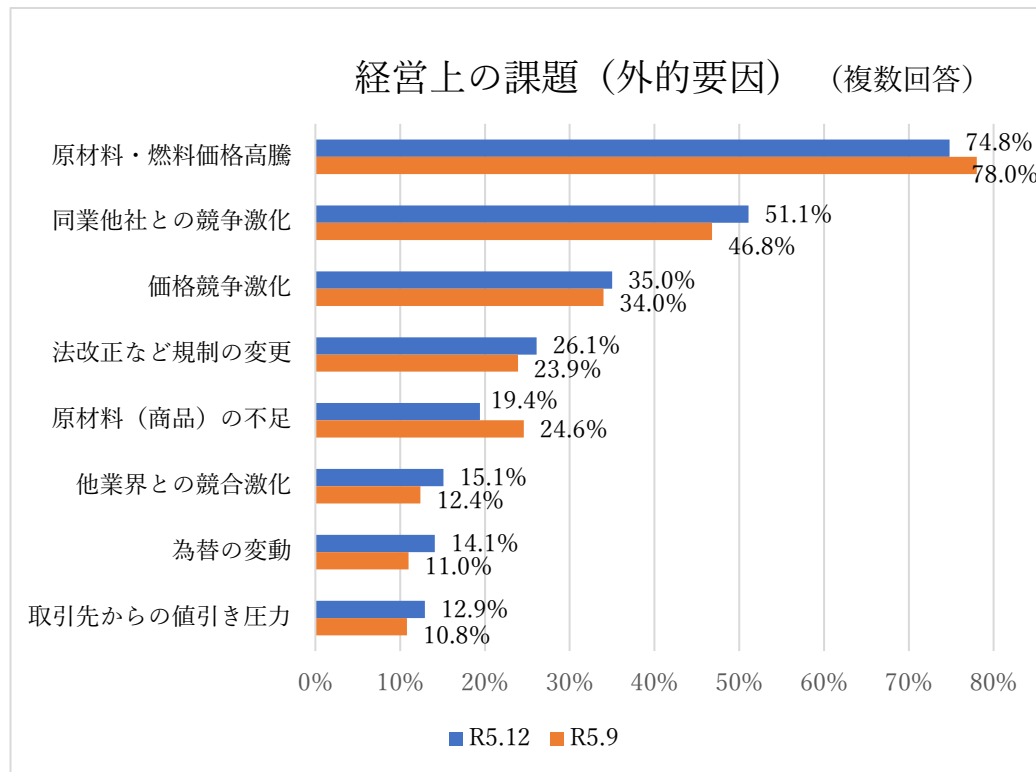
		人材確保・育成	受注・販売量不足	価格の適正化	営業力不足	
業種別経営課題 （内的要因） 【複数回答】	全業種	R5.12	44.0%	38.8%	31.4%	29.5%
		R5.9	47.2%	41.9%	30.9%	35.9%
	製造業	R5.12	41.0%	52.4%	33.3%	33.3%
		R5.9	47.1%	60.8%	42.2%	30.4%
	建設業	R5.12	56.3%	29.1%	27.2%	24.3%
		R5.9	62.9%	33.0%	28.9%	33.0%
	小売業	R5.12	28.8%	59.6%	26.9%	36.5%
		R5.9	29.1%	58.2%	27.3%	29.1%
	卸売業	R5.12	25.4%	47.5%	32.2%	33.9%
		R5.9	38.3%	41.7%	38.3%	31.7%
	サービス業	R5.12	52.3%	20.7%	35.1%	25.2%
		R5.9	47.4%	25.0%	38.8%	30.2%

⑪—経営課題（外的要因）—

【「原材料・燃料価格高騰」が9期連続で最多】

外的要因における経営上の課題は、「原材料・燃料価格高騰」を挙げる回答が74.8%（-3.2ポイント）とポイントは減少したものの、9期連続で最多となった。次に「同業他社との競争激化」が51.2%（+4.3ポイント）と多く、6期連続で回答割合が高まる結果となった。

業種別にみると「原材料・燃料価格高騰」は全ての業種で課題として最も多く挙げられ、卸売業で87.5%（+5.8ポイント）、小売業で58.8%（+2.7ポイント）とポイントの増加が見られた。繊維卸売の事業所からは「円高の時と比べて仕入価格は2～3割ほど上昇し価格転嫁を進めているが、販売先は安価の生地を求めるため商品が売れなくなっている」といった声が聞かれた。



		原材料・燃料価格高騰	同業他社との競争激化	価格競争激化	法改正など規制変更	
業種別経営課題 （外的要因） 【複数回答】	全業種	R5.12	74.8%	51.1%	35.0%	26.1%
		R5.9	78.0%	46.8%	34.0%	23.9%
	製造業	R5.12	84.8%	50.5%	31.4%	19.0%
		R5.9	91.1%	42.6%	42.6%	15.8%
	建設業	R5.12	83.8%	46.5%	32.3%	32.3%
		R5.9	86.2%	46.8%	28.7%	29.8%
	小売業	R5.12	58.8%	54.9%	47.1%	9.8%
		R5.9	56.1%	56.1%	42.1%	14.0%
	卸売業	R5.12	87.5%	44.6%	35.7%	17.9%
		R5.9	81.7%	40.0%	33.3%	21.7%
	サービス業	R5.12	57.5%	57.5%	34.9%	39.6%
		R5.9	68.7%	57.4%	27.0%	32.2%

参考：回答者の声

- 公共事業関連の受注がここ3か月間は多かった。(土木工事) ➡
- 秋から冬にかけて基礎工事の受注が多かったため、景況、売上ともに好調であった。(内装工事) ➡
- ここ3か月は福井駅前や加賀温泉駅前の配管工事の受注があり、例年の2倍ほどの売上で、景況としてもよい状況であった。(管工事) ➡
- 値上げは継続して続けているが、自社の値上げペースよりも仕入先の値上げペースが速く、収益が圧迫されている。(精密機械器具卸売) ➡
- 仕入値は上がっているが、未だ上昇分が市場価格に反映されておらず、自社で負担しなければならない。また、運送コストも上昇しているため、売上高は上がっても採算は良くならない。(自動車部品卸売) ➡
- 問屋からの掛値や送料が上がっているため、販売価格に転嫁している。売上はコロナ前までの状態に戻ってきたが、増加しているのは値上げ分のため、採算は悪くなっている。(スポーツ用品小売) ➡
- 後継者不足や労働力を確保できない工場の廃業や産地の縮小、東南アジアとの製品の競合により、業界全体の景況、売上高ともに悪い状況が続いている。(再生資源卸売) ➡
- 鉄スクラップの卸値は変わらないが、燃料費が高騰しており、経営に影響を与えている。(鉄・スクラップ卸売) ➡
- 仕入値は物価上昇前と比べると、15%ほど上がっているが販売価格は据置している。新幹線開業など期待もあるが、今は不安感の方が強い。(食肉小売) ➡
- 販売量としてはコロナ前の令和元年度の水準まで戻ってきているが、1俵あたり仕入値が1,500円ほど上がっている。(米穀類小売) ➡
- 主要顧客が北陸新幹線の線路造成工事の作業員だったので、工事がほぼ終了した現在は売上が減少している。(各種商品小売) ➡
- 物価高の影響は間違いなく受けており、また消費者としては余計な買い物を避けるためにショッピングセンターなど複数店舗が入っている場所を避けがちな心理があるように思われ、この2つの要因が売り上げに大きく歯止めをかけていると感じている。(洋品雑貨・小間物小売) ➡

- 年度末で一時的ではあるが、大型工場の設備改修が減っている。(金属製品製造) ➡
- 得意先が受注したものを引き受ける形で行っているが、昨年、一昨年の見積もりから3割ほど価格を下げしてほしいと要望があった。材料費も人件費も上がっているなかで厳しい。(機械製造) ➡
- 産休や退職などで労働力が不足し、自社で設定した売上目標を達成するには人手が足りない。(民営職業紹介) ➡
- 全ての業務を1人でやっているため、営業力のリソース不足を感じている。(広告代理) ➡
- 週末のイベントが増えてきているため、自宅で過ごす時が多かったコロナ禍の時と比べて、需要が減っている。(パン・菓子製造) ➡